

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	ふるさと農業創生支援事業	担当課	農政課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	「しごと」を創出し働く場をつくる
対象事業費(千円)	2,000	施策の展開	(1) 新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	1,000	想定される主な事業	① 創業・起業の支援

○事業の目指す方向

市内農業者の新たな農業経営の展開を支援することで、農家自身による新たなコト興しを推進し、農家所得の向上に寄与するとともに、地域農業の魅力発信と価値の創出に努める。

○事業概要

農業の魅力を生かした農家民宿や農家レストラン等の起業者が相互に連携し学習交流できる場づくりや外部への情報発信をするとともに、新規導入の為のノウハウを講習セミナーの開催、またすそ野を広げるための農業者の実体験の機会づくり(教育民泊の受け入れ)等を企画し、実施する。

○実施状況

- (1) “農の魅力”情報発信事業
 - ・農家レストランを巡るモニターツアーの開催：1回
 - ・農家レストランの食材やおもてなしの魅力を発信する市ホームページ用データの作成
- (2) 農家民宿開設支援事業
 - ・セミナーの開催：2回
 - ・相談窓口設置とアドバイス：随時
- (3) 農村民泊推進事業
 - ・農山村教育民泊モニターツアーの開催：1回
 - ・受入家庭を対象とした交流・学習会の開催：1回

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
農家民宿開業数(営業中)	14	12	86%	15

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

学生を対象にした農業体験(農山村教育民泊)や農家レストランの魅力を発信する市ホームページ用のデータ作成、民宿開業のための相談窓口の設置等を行っており、市民や社会のニーズを農業の分野から反映させている。

(2) KPIに寄与しているか

農家民宿開業に係る相談窓口の設置や、セミナー(説明会)の開催をしている。

(3) KPIの達成状況

目標には達しなかったが、常時窓口を開設しており、相談者3名のうち2名が京都府の助成を利用し民宿開設へ動いている。今後も相談者及び開設者の増加が期待できる。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

農家レストランの食材やおもてなしの魅力を発信する市ホームページ用データを作成しており、今後、内容を整理した上、南丹市(農政課)のホームページに掲載する。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

委託事業であるため直接業務は行っていないが、仕様書どおりの業務が執行されているかや今後の事業の進め方等の協議を行っており、業務に無駄が無いようにしている。

(6) 関連している事業との連携状況

○今後の展開

継続して事業を実施する。
詳細な業務内容については委託先と協議を行いながら、必要に応じて、計画や方向性の修正を行う。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	創業支援事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.7～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>切れ目ない子育て支援と支援型プログラムを通じた女性活躍推進事業</small>	基本目標	「しごと」を創出し働く場をつくる
対象事業費(千円)	999	施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	499	想定される主な事業	①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

南丹市内の地域資源を活用し、地域が稼ぐ仕事づくりを進めるため、南丹市内において起業を志す者を対象とした創業セミナーを開催し、定住の促進と地域経済の活性化を図ることを目的として実施するもの。

○事業概要

創業支援事業企画運営業務
 創業セミナー開催に係る、企画、運営、広報に係る業務

○実施状況

9月2日/9日/16日/30日/10月7日 13:00～17:00 5日間
 参加人数 23名(申込人数)
 創業・起業するために必要な知識、情報等を講義、ワークショップで進める。
 参加受講者は、国の創業に関する優遇制度の活用が可能となる。
 修了証授与。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
創業件数	5	12	240%	5

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

南丹市外からの参加者があり、南丹市への関心が高まっている。

(2)KPIに寄与しているか

(3)KPIの達成状況

目標値の倍以上となった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

広報開始時期を早め、SNSなどを活用し広域的に広報を行った。

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

参加者への、創業・起業に向けてのアフターフォローを実施し、南丹市内での創業・起業に繋げていく。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	むら・ひと・しごと創生事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	「しごと」を創出し働く場をつくる
対象事業費(千円)	13,840	施策の展開	(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
交付金充当額(千円)	6,920	想定される主な事業	③むら・ひと・しごと創生

○事業の目指す方向

地方創生の趣旨に基づき、地域資源を活用した起業や若者の定住促進に向けた仕組みづくり、生活環境や地域福祉の向上に向けた取り組みなど、地域組織が行う多面的かつ先駆的で他のモデルとなる取り組みを支援し、地域の自立と若者の夢がかなえられる地域ならではの社会基盤の整備を行うとともに、地域を支える人材を育成する。

○事業概要

・地域団体が自主的に行う事業で、特徴的な地域資源を活用した起業の仕組みがあり、定住促進に大きな効果が見込める事業に対する交付金の交付。特に地域でのしごとづくりが必要となる日吉・美山地域をモデル地域とし、地域資源を活用しながら事業を実働的に行うことができる団体からの提案事業を採択した。
 ・地域に新たなビジネス及び雇用を創出し、地域経済の活性化と地域雇用の促進を図るため、市内の空き家等をサテライトオフィスとして活用して事業を開始する者に対し補助金を交付。

○実施状況

- 森の湯治場(3,000千円)
美山町宮島地域でホリスティック医療の観点から、自己医療で本来の健康を取り戻す実践場所のモデル地域を創設した。また、森林鍼灸院と森林内ヨガスタジオのインフラ整備を行い、代替医療の専門家が里山地域で開業できる環境を整備した。
- ひよし龍の森プロジェクト(2,000千円)
日吉町世木地域が有する自然、施設、地域資源や人材など地域に点在するひと・ものをつなぎ、地域を訪れた都市住民が地域内を周遊し、一日過ごす「むら型」のアウトドアリゾートの仕組みをつくり、交流人口の増加、地域ならではの「しごと」の創出、移住定住の促進を図る取り組みとして「ひよし龍の森プロジェクト」を継続実施。
- みやまワーキングステイ(2,605千円)
逆指名型移住マッチングイベントである移住ドラフト会議への参加。美山町地域でエコツーリズムをはじめ観光産業を目指す人材と地域で活躍する事業者が出会う機会を創出し、移住や新しい働き方、新たな担い手の確保につなげるため、3泊4日のショートステイプログラムを実施
- サテライトオフィス誘致事業者等支援補助金(事業所開設費、事業所運営費を対象に最長3年支援)(3,100千円)
事業所開設1件、事業所運営2件
- 獣肉活用方針策定(3,135千円)

○OKPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
起業等によるしごと創出数	5	1	20%	5

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

条件不利地である農山村地域で生活するためには、「しごと」が重要な要素である。さまざまな選択肢はあるが都会との距離は物理的に解消できないことから、地域内での「しごと」づくりが必要である。

(2)KPIに寄与しているか

特徴的な地域資源を活用した「しごと」づくりと、起業の仕組みづくりに寄与するとともに、定住促進に大きな効果が見込める。

(3)KPIの達成状況

「しごと」創出に向けた基盤整備を継続することにより、その中から新たな「しごと」を創出していきたい。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

これまで整備した基盤をもとに引き続き新たな「しごと」創出に向けて取り組まれている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

各取組ともこれまでの地域の資源である森林資源、地域資源、エコツーリズム等の観光資源を活用したものであり、既存の事業と関連させ新たな事業に取り組んでいる。

○今後の展開

特徴的な地域資源を活用した「しごと」創出に継続して取り組むことで、定住促進につなげて地域の活性化に寄与していきたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	南丹市販路開拓支援事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.7～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	「しごと」を創出し働く場をつくる
対象事業費(千円)	3,946	施策の展開	(2) 地域資源を活用した企業誘致と産業力強化
交付金充当額(千円)	1,973	想定される主な事業	③ 小規模企業等への支援

○事業の目指す方向

市内に立地する工業製品、食料加工品を製造する企業等が、国内外にて開催される展示会・見本市等への出展を後押しすることにより、新規取引先の獲得等、販路開拓に向けた支援を行う。

○事業概要

南丹市内の事業所が市内において製造、制作、加工、開発された製品及びサービス等を市外において、取引の新規開拓、拡大のために展示会等へ参加するのに必要な経費(出展料・装飾費・旅費等)の一部を支援する。

○実施状況

1事業者あたり1回20万円を限度に年間2回まで申請可能
 同一事業者に対する補助金の交付は3か年度、合計100万円を限度
 平成29年度実績 延べ20件、16社 369,632千円

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
支援件数	30	20	67%	18
新規取引先の獲得	8	191	2387%	15

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

事業者の関心度は高く、本補助金を契機に初めて展示会に出展する企業もあり、販路開拓、新規顧客獲得に大いに効果があった。

(2) KPIに寄与しているか

情報収集や情報発信なども積極的に行うことで相談件数等増加している。

(3) KPIの達成状況

新規取引先の獲得は指標の10倍以上の成果があった

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

これまで市内事業者の販路開拓を支援する事業がなく、一昨年度から実施したところ、事業者の関心度は高く、本補助金を契機に初めて展示会に出展する企業もあり、販路開拓、新規顧客獲得に大いに効果があった。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

予め申請内容をチェックしたり、実績報告で必要となる項目をテンプレート形式で示すなどし、事業者と事務担当者の解釈違いによる事務負担増化を防ぎ、他業種にわたる申請者の効果把握が容易となるなど事務効率が上昇した。

(6) 関連している事業との連携状況

○今後の展開

市内の事業者において本事業は大変好評であり、多くの問い合わせがあった。本事業を契機として、初めて展示会等に出展した企業があるなど、販路開拓、新規顧客獲得支援のためにも継続して支援を実施したい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	空き家流動化対策事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	2,440	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	1,220	想定される主な事業	①空き家の活用

○事業の目指す方向

増加する移住希望者に対して空き家バンクの物件登録が伸び悩んでおり、移住希望者のニーズに十分対応できていない状況を改善するため、地域のつながりを活かした地縁組織との協働により、空き家を地域資源として掘り起こし、定住促進及び地域振興に活用する。

○事業概要

- ・空き家掘り起こし事業
地縁組織の働きかけにより、空き家所有者等が空き家バンクへの登録に同意し、当該所有者等が空き家バンクに新規登録した場合、その活動に対し報奨金を支給(1物件3万円)する。また、当該空き家が新規活用された場合、報奨金を追加で支給(1物件2万円)する。
- ・空き家掃除お助け事業
空き家バンクに登録された空き家や新規活用が見込まれる空き家について、地縁組織が所有者等の同意を得たうえで、家財道具の撤去などを行う場合、その廃棄物の処分費(バケツ代)を補助(1物件上限20万円)する。
- ・空き家思い出保存事業
空き家バンクに登録した所有者等が希望する場合、当該空き家の思い出を残すための写真アルバムを市が制作し、当該所有者等に贈呈する。

○実施状況

- 平成29年度から事業を開始し、その実績は下記のとおりである。
- ・空き家掘り起こし事業 空き家バンク新規登録15件、新規活用9件
 - ・空き家掃除お助け事業 9件
 - ・空き家思い出保存事業 1件

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
空き家活用件数	6	30	500%	20
移住相談件数	100	195	195%	150

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

活用されなければ倒壊の危険や景観を損なう恐れがある空き家を、本事業により定住促進や地域振興に活用することは、放置空き家対策と定住促進対策の双方に効果があることから、市民や社会のニーズを反映している。

(2) KPIに寄与しているか

本事業開始前後で空き家バンク物件登録件数は大幅に増加しており、家財撤去やアルバム贈呈による所有者負担の軽減策も後押ししたことにより、空き家活用件数の増加につながった。

- ・空き家バンク新規登録件数 事業開始前(H28)33件、事業開始後(H29)51件

(3) KPIの達成状況

空き家活用件数、移住相談件数とも目標値を大幅に超過しており、想定以上の達成状況である。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

本事業を通じて、空き家が住宅や事業所に活用された平成29年度の実績は下記のとおりであり、定住促進及び地域振興に寄与している。

- ・住宅9件、事業所4件(各事業間の重複除く実数)

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

申請様式や各種手続きを簡素にしたことにより、地縁団体等の申請に伴う事務負担を軽減させるとともに、行政側の業務も効率化させた。

(6) 関連している事業との連携状況

集落支援員・地域おこし協力隊等を活用して、他の定住促進施策や地域振興施策とあわせて地縁団体等に情報発信することにより、地域の実情に応じた事業展開や組み合わせを図っている。

○今後の展開

市全域で共通する総合的な定住促進施策を推進しながら、それぞれの地域特性や課題に応じた地域別の施策を同時に展開することを基本に、従来の施策に加えて、子育て世帯の定住支援、地域との協働による空き家流動化、シティプロモーションといった情報発信などをさらに充実させる。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	定住促進サポートセンター運営事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	4,028	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	2,014	想定される主な事業	③定住促進に向けた情報発信
			⑤定住促進サポートセンターの効果的運用

○事業の目指す方向

移住者の受入を積極的に進めるため、移住に関する情報の集約や情報発信、地域における相談・受け入れ窓口、また受け入れる地域を支援する窓口として、定住促進サポートセンターを設置し、定住促進を図る仕組みを構築する。

○事業概要

定住促進の拠点として定住促進サポートセンターを設置し、移住に関する情報収集や情報発信を行う。また本拠点施設や、様々なサポート人材が中心となり地域の定住促進意識の高揚を図り、移住者を受け入れる地域の仕組みや積極的な情報発信ができる仕組みを整えている。

○実施状況

・定住促進サポートセンターの運営
 移住相談や空き家の流動化を主な業務とし、空き家案内も実施している。
 移住相談数 195件(前年度+71件)

○KPI

KPI	実績値			H30目標値
	H29目標値	実績値(H30.4現在)	達成度(%)	H30年度目標値
空き家活用件数	6	30	500%	20
移住相談件数	100	195	195%	150

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

南丹市は、都市近郊にありながら恵まれた自然環境が残り「ちょうどよい田舎」として人気は高い現状がある。本施設の運営により、定住促進の窓口が明確になり、情報収集や情報発信なども積極的に行うことができる。情報発信の強化により今後も移住相談は増加することが予想される。

(2)KPIに寄与しているか

定住促進の窓口が明確になり、情報収集や情報発信なども積極的に行うことで相談件数等が年々増加している。

(3)KPIの達成状況

空き家バンクに登録された空き家の活用、移住希望者の相談がともに増加している。今後も相談者が空き家バンクを利用した移住につながるよう体制を強化していきたい。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

定住促進サポートセンターには職員2名を配置し、定住促進についての相談窓口として機能している。30年4月には鉄道の利用のみでも移住希望者が相談に訪れられるよう市役所日吉支所に移転した。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

移住定住のワンストップ窓口としての機能を有し、相談対応を効果的に行っている。

(6)関連している事業との連携状況

京都府指定の移住促進特別地域とともに、移住者の受け入れを積極的に行っていきたい。空き家バンク登録物件の増加を図るため、29年度から空き家流動化対策事業を実施し、地域の協力を得ながら定住促進を推進している。

○今後の展開

拠点施設として移住者を受け入れる入り口となるよう今後も対応する内容を充実させたい。また、定住促進サイト(なんくら)を活用した積極的な情報発信と、地域における移住者を受け入れる仕組みづくりをさらに進めたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	移住促進事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	1,000	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	500	想定される主な事業	③定住促進に向けた情報発信

○事業の目指す方向

定住促進アクションプランに基づき、地域住民が創意工夫を凝らし、地域の定住促進を目的として情報発信ツールを作成する取り組みを支援し、定住促進の多様な施策を推進するうえで有効な地域主体の情報発信の仕組みづくりを推進する。

○事業概要

地域の特性を生かした地域主体の定住促進を推進するため、その情報発信のひとつとして地域情報を取りまとめた集落の教科書等の発信ツールを整備する地域を支援するものであり、地域おこし協力隊をはじめ、集落支援員やまちづくりデザインセンターなどの主体と連携しながら事業を進めるもの。

○実施状況

(定住促進地域情報発信ツール整備事業交付金の交付)
2団体に対して交付
・地域情報ツール整備事業 1地区(美山町大野区)
リーフレット、幟、散策コースの看板を作成、配置することで地域の魅力を発信
・集落の教科書 1地区(園部町摩気地区)
集落の生活様態や慣例、地域資源など移住希望者等が求める情報をわかりやすくまとめた冊子を作成

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
空き家活用件数	6	30	500%	20
移住相談件数	100	195	195%	150

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

南丹市は、都市近郊にありながら恵まれた自然環境が残り「ちょうどよい田舎」として人気は高い現状がある。定住促進を推進するためには、地域の情報が不可欠であり、情報発信の強化により今後も移住相談は増加することが予想される。

(2)KPIに寄与しているか

情報収集や情報発信など積極的に行うことで相談件数等の増加につながっている。

(3)KPIの達成状況

情報収集や情報発信など積極的に行うことで相談件数等の増加につながっている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

平成29年度に整備した情報発信ツールを用いて地域自らが情報発信を行い定住促進に向けて取り組まれている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

情報発信ツールを地域が保有することにより、個々の情報発信が可能となるうえ、これらを集約することで市の定住促進情報としての発信も可能となる。

(6)関連している事業との連携状況

地域おこし協力隊、集落支援員などの定住促進や地域振興に関わる主体と連携しながら事業を進めている。

○今後の展開

地域が主体となる情報発信ツールの整備を継続して支援し、定住促進及び地域の活性化に寄与していきたい。また、これまでの整備されたツールによる積極的な情報発信と、地域における移住者を受け入れる仕組みづくりをさらに進めたい。

地方創生交付金事業評価調査

細事業名	シティプロモーション推進事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	4,482	施策の展開	(1)定住・移住促進に向けた情報発信と支援
交付金充当額(千円)	2,241	想定される主な事業	③定住促進に向けた情報発信

○事業の目指す方向

南丹市の魅力ある資源、様々な取り組みをメディア、ICT等を活用し戦略的にPR活動を行い、全国に対し南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させることにより、交流人口の増加ひいては定住人口の増加につなげることを目的とする。



○事業概要

- ・南丹市シティプロモーション動画、テーマソング作成
- ・市営バス車体へのシティプロモーションロゴマークのマーキング
- ・啓発物品製作(バックパネル、シール2種)

○実施状況

南丹市シティプロモーション戦略に基づくシティプロモーションの実施

- ・南丹市シティプロモーション動画、テーマソング作成
Uターン者を主なターゲットとした動画とキャッチコピーを生かしたプロモーションビデオ及びテーマソングを作成し、市ホームページや動画サイト、ケーブルテレビで発信。

プロモーションビデオ  テーマソング 

- ・市営バス車体へのシティプロモーションロゴマークのマーキング
新規導入の市営バスの前後、側面にロゴマークを貼り付け、市内を走行する際にロゴマークを発信
- ・啓発物品製作(バックパネル、シール2種)
イベント等に使用するため、ロゴマークを用いたバックパネルとシールを製作

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
移住相談件数	100	195	195%	150

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

人口減少社会の中、南丹市を持続的に発展させるために定住促進の取り組みが重要であり、魅力的で「選ばれるまち」となることが必要である。魅力ある資源や充実した施策を市内外にアピールし、ターゲットに合わせてわかりやすい形で伝えていくことが必要である。

(2)KPIに寄与しているか

南丹市のイメージや認知度、知名度を向上させることにより、交流人口の増加、移住先の候補とした相談につながっている。

(3)KPIの達成状況

各種定住促進施策とともに市のイメージ、認知度、知名度を向上させることで、市への移住相談の件数は増加している。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

「南丹市シティプロモーション戦略」に基づき、キャッチコピーやロゴマークを活用し、南丹市の周知に努め、作成した動画のYouTubeへの投稿など知名度向上を図っている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

市営バス車体へのマーキングについては、新規購入車両は車両製作時に同時にマーキングしコスト削減を図っている。

(6)関連している事業との連携状況

各種定住促進施策とあわせて定住人口の増加につなげていく。

○今後の展開

28年度策定した「南丹市シティプロモーション戦略」に基づき、市内一体となって推進するため、キャッチコピーやロゴマークを活用し、「南丹市」の周知に努め、作成したテーマソング及び動画を様々な場面で放送して市内外で発信していく。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	観光イベント振興事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	10,120	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	5,061	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

市民の地域への誇りや一体感を高め、観光客の集客による地域の活性化につなげるため、商工会や実行委員会が主催する観光イベントに対し支援を行う。

○事業概要

南丹市における代表的な夏のイベントとして花火大会、夏まつりを実施。お盆を故郷で過ごすため帰省した人々と、地元住民に楽しい夏のひと時を過ごす場を提供し、ふるさと”南丹”の良さを感じてもらうことにより、郷土愛を育み地域経済の推進及び活性化を図る。

○実施状況

- ①第71回京都南丹市花火大会 8月14日 来場者100,000人 うち有料会場約22,000人 露天商約150店舗
- ②なんたん商工祭 3月10日 来場者1,000人 商工会員企業出展8社、飲食店14店 チアダンスチームのダンスと音楽ステージイベント、商工会女性部による、ふるまい鍋
- ③大野ダムさくら祭り 4月8日～16日 来場者4,000人 ライトアップ、花火、吹奏楽団、太鼓、地元特産品販売
大野ダムもみじ祭り 11月18日、19日 来場者1,500人 宝探しゲーム
- ④第34回清流美山の鮎まつり 8月13日 来場者4,000人 鮎つかみ、音楽ステージショー、花火、盆踊り

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

都市住民と地域住民の交流を深め、夏の一日を楽しみながら伝統文化の保存と地域振興を図る。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している。

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

市外からの来場者も多く、リピーター率も高いので、継続して実施する。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	観光宣伝事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	8,784	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	4,392	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

南丹市の観光によるまちづくりを推進するため、オール南丹の観光ネットワークを組織し、観光まちづくり戦略にもとづき活動を行う。委員会による観光まちづくり事業を推進するため、国内外に観光資源のプロモーションを行うことにより、南丹市の観光ブランドの向上を図る。

また、南丹市道の駅連絡協議会がでの連携による道の駅の情報発信の強化、地域振興と観光誘客の両面から連携をいかした観光まちづくりを実施し、道の駅からの情報発信の強化、観光誘客の強化を行う。

○事業概要

- (1)国内外への南丹市の観光プロモーション
観光情報の発信、プロモーション活動の実施。観光展等への参加
- (2)観光まちづくり研修の実施
観光マーケティング、インバウンド対応等
- (3)「森の京都」による観光振興事業の実施
京都府の「森の京都」推進と連携した観光振興事業の実施
- (4)道の駅作り作成による情報発信

○実施状況

- ①道の駅連絡協議会便り 各道の駅の新商品やおすすめの品の紹介
毎年1回お盆前の7月末に発行。20,000部印刷し、各戸配布及び各道の駅に配架。
- ②観光のまちづくり推進事業委託
南丹市観光まちづくり実行委員会の業務を美山町観光協会に委託。台湾での日本物産展への出展や、全市的な観光PRを行う。
- ③美山観光まちづくり協会補助金
(一財)南丹市美山観光まちづくり協会(美山DMO)への補助

○OKPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

観光入込客は200万人を超え、外国人宿泊者数も年々増加している。市内3つの道の駅は、観光客だけでなく、地元の利用も多く、また、地元産野菜の売場に多くの農家が参画している。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している。

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

観光客一人当たりの消費額を上げる。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	観光協会事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	6,947	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	3,474	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

観光地としての南丹市のレベルアップと知名度の向上を図るため、市内の観光協会の運営及び事業実施を支援する。

○事業概要

るり溪観光協会・八木町観光協会・日吉町観光協会・美山町観光協会に補助金を交付

○実施状況

るり溪観光協会・・・るり溪の美しい自然を観光客に宣伝し集客を図る、るり溪の清掃・管理及び観光宣伝。
 八木町観光協会・・・八木地域の活性化と観光振興を図るとともに、観光協会事務所を開設、ホームページの作成により積極的な情報発信を行う。
 日吉町観光協会・・・ひよし夏祭り花火大会、イベントでの物産品販売と観光宣伝。日吉地域の活性化と観光振興を図る。
 美山町観光協会・・・観光協会事務所での観光案内業務を中心に、マスコミや旅行会社へ情報発信。宣伝啓発や観光目的作りのための写真コンテストを実施。新たな観光魅力の提案としてトレイルコースの現地踏査を継続し、コースの整備やガイド養成。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

観光によるまちづくりを推進している。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している。

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

観光宣伝事業

○今後の展開

市外からの来場者も多いので、継続して実施する。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	観光動態調査事業	担当課	商工観光課
実施時期	H29.9～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	3,507	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	1,753	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

本市観光産業の年間を通じた観光客の消費額の低迷を改善させる方策の基礎資料となるデータの収集および分析を目的とする。

○事業概要

市内への観光客の居住地・性別・年齢と市内における動態の把握を行うため、業務委託により、スマートフォン向けアプリの開発、観光客誘致のための周遊イベント等の企画、収集データの分析を行い、観光における現状把握と観光客誘致に向けた有効なイベントを実施する。

○実施状況

ICT技術を活用し、観光客の動態や購買等の状況を調査する。

①周遊イベントを企画し観光客を誘致

②観光客の動態調査

③観光客の動態を分析

10月のイベントは商工会青年部サンサン祭りに合わせて実施予定であったが台風のため前日に中止決定。

11月は大野ダムもみじ祭りに合わせて謎解きゲームを開催。150名が参加。電波状態が悪く、ビーコンを使つてのゲームはできず紙面で回答いただき、集計・分析を行った。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

行楽シーズンの秋のイベントを予定していたが、1回目が台風で中止、2回目も2日間のうち初日が雨となり出足が鈍った。分析のためのデータ収集が1回になってしまった。参加者の交通手段の傾向や、リピート率、観光案内左院の不足などの課題が明確になった。

(2)KPIに寄与しているか

寄与している。

(3)KPIの達成状況

いずれも達成した。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

昨年度開発の観光アプリを活用し、誘客・集客につなげる。

(6)関連している事業との連携状況

商工会青年部 サンサン祭り 美山町大野振興会 もみじ祭り

○今後の展開

南丹市内で開催の各種イベントの広報・周知を図り、南丹市の認知度の向上と、誘客・集客につなげる。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	山陰本線南丹市広告宣伝事業	担当課	地域振興課
実施時期	H29.5～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	5,286	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	2,643	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

JR園部駅以北の複線化を実現するため、JR山陰本線の利用者増加に向けた取り組みが必要なことから、JRの広告媒体を活用して全国に向けて南丹市をPRすることでJRの利用促進を図る。

○事業概要

JR車両内での中吊り・額面広告掲出、冬季の車体広告の掲出及び京都駅構内でのサインージ広告の掲出

○実施状況

夏季・冬季に広告掲出



○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

交流人口増加に寄与している。

(2)KPIに寄与しているか

交流人口増加に寄与している。

(3)KPIの達成状況

観光入込客数の指標を達成した。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

過去の広告物について、JR西日本コミュニケーションズ作成のカタログに掲載されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

業務実施の中で、なるべく安価でより多くの広告メニューを掲載可能なように委託業者と協議している。

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

サインージ広告などの、電子データを活用した広告を多く導入することにより、見る人に興味を持ってもらいやすい広告媒体としていく。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	各種イベント等開催事業	担当課	日吉支所地域推進課
実施時期	H29.10		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	1,228	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	614	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

日吉地域の各種団体により実行委員会を組織し、ステージイベントや模擬店、行政のPRコーナー等を設け、市内・市外からの多数の来場者により、観光振興・商工振興・地域振興を図る。

○事業概要

日吉地域の各種団体により実行委員会を組織し、10月29日に「ひよし水の杜フェスタ2017」をスプリングパークで開催してステージイベントや模擬店、PRコーナー、フリーマーケット等を行い市内及び市外から多数の来場者により、観光振興や商工振興、地域振興を図る。

○実施状況

当日台風の接近により中止となった。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

市民に定着したイベントとして30年以上続いており、市民のニーズが高い。

(2)KPIに寄与しているか

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

イベントの出演者については、地元関係の団体に依頼する事によりイベントの出演料を削減している。

(6)関連している事業との連携状況

日吉町文化祭展示を、近接の体育館で同日に開催している。また、隔年で開催している南丹船井交通安全大会を共催している。

○今後の展開

市民に定着したイベントであり、関係団体と内容を検討し市内・市外から、より多くの来場者を迎える事により、観光振興・商工振興・地域振興を図る。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	各種イベント等開催事業(美山ふるさと祭)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H29.11		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	211	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	105	想定される主な事業	①観光まちづくりの推進

○事業の目指す方向

広く市民の参加・参画によって交流を深め、健やかな暮らしと人づくりを目指し、地域の活性化を図ることを目的とする。
また、美山町地域の豊かな自然や森の恵みを活かし、国定公園誕生後の「美山かやぶきの里ワンデーマーチ」との一体感の醸成を図り、いっそうの交流拡大を目指す。

○事業概要

ステージショー、お楽しみ福引大会、文化作品等展示、農林産物品評会、特産品・加工食品等販売コーナー、フリーマーケットなど

○実施状況

開催日直前に到来した台風21号の影響による倒木や土砂崩れ、道路の寸断など多大な被害が発生したため、早期の災害復旧に努めることやスタッフの人員確保の観点から、今年度のイベントは中止となった。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

旧町時代から連綿と継続されてきた事業であり、地域のイベントとして定番となっている。
また、ステージショーやフリーマーケット、展示等に地域住民・事業所が参加することにより、交流の場や活動の成果発表の場を提供することにもつながっている。

(2)KPIに寄与しているか

かやぶきの里ワンデーマーチ参加者へのふるまいとして美山の特産物を提供することで、地域住民とのふれあいのなかで地域の魅力を発信し、野菜や加工品などの消費喚起、あわせてリピーターの獲得につながっているものと考えられる。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

本事業は実行委員会に対する運営補助事業であるため、施設設備等は行っていないが、事務経費として適切に事業を執行されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

関係団体の実行委員会への参加による事業の円滑化、物品借用による経費削減に努めている。

(6)関連している事業との連携状況

市内外より多くの参加者がある美山かやぶきの里ワンデーマーチとの同時開催により、町外からの集客力の向上を図っている。

○今後の展開

森の京都や京都丹波高原国定公園などの地域資源を活かした事業展開により、よりいっそうの地域の活性化と観光客の呼び込みを図る。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	スプリングスひよし彩花菜園整備事業	担当課	日吉支所地域推進課
実施時期	H28.3～H30.2		
交付金名	地方創生拠点整備交付金	南丹市地域創生戦略	
	観光・交流施設と地域資源ネットワークによる交流人口拡大事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	10,466	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	5,233	想定される主な事業	②観光・交流施設の整備・充実

○事業の目指す方向

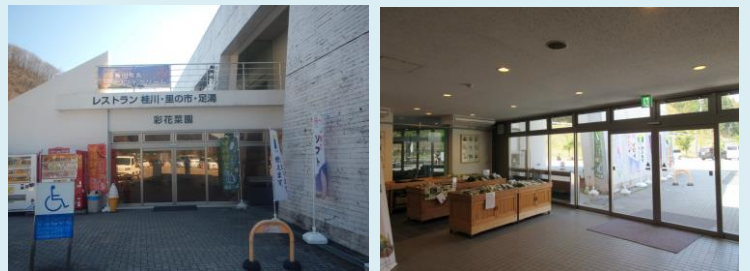
これまで取り組みを進めてきた地域資源を活かした商品開発、人材育成、イベント、ICTの活用などのソフト事業と観光・交流に関する施設の整備と充実により、拠点となる道の駅などと、特産品販売、農業体験のネットワーク形成を図り、最大限の交流人口の拡大により、地域経済全体の底上げを目指す。

○事業概要

農産物直売施設「彩花菜園」では、地元農家生産の野菜等を販売しているが、売り場に空調設備や日よけなどの鮮度を保つ設備を有していないため、天井、壁、空調設備及び扉の設置など鮮度を保つ保冷可能な施設へ全面改修及び拡張を行う。これにより鮮度の高い質の良い“売れる商品”の販売を行い、来訪者、売上増加を目指す。

○実施状況

【農産物直売施設の増築】
・農産物直売施設「彩花菜園」の増築工事



○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
施設農産物等売上額	27,843千円	32,749千円	118%	30,189千円
施設観光消費額	330,352千円	295,355千円	89%	335,457千円
施設観光入込客数	444,382人	382,330人	86%	451,249人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

近年、新鮮な農林産物の需要が増えており、交付金を活用した本事業は時代のニーズに合致をしている。観光・交流の拠点施設として交流人口の拡大が図れる機能を充実させ、自らも人を呼びこめる施設として機能を果たし、各施設並びに地域を周遊させ、地域経済全体の底上げを図ることが求められている。

(2)KPIに寄与しているか

本施設を改修した以後は、生産農家も増えるとともに新たな利用客の来訪者も増加し、施設のにぎわいと農産物等の販売額の増加に寄与している。

(3)KPIの達成状況

施設における観光消費額と観光入込客数は、目標値に届いていないが、リニューアルをしたことにより農産物等の売上については、H29の目標値を超える実績を残しており、成果があった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

本格的な施設の大きな効果が表れるのは夏場以降となるが、日差しが差し込む場所であるため、鮮度が保たれる意義は大きい。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

出荷をされた農林産物は、鮮度が落ちたものは処分をしていたが、鮮度を維持できるため、処分費用も省かれ、業務効率が図れる。

(6)関連している事業との連携状況

・拠点となる道の駅及び都市と農村の交流施設と地域資源を活用した商品開発、人材育成、イベント実施、ICT活用、特産品販売、農業体験、宿泊施設のネットワークを形成することにより交流人口の拡大を図る。
・市内に点在する農産加工グループの後継者育成につなげて、市内での継続した農産加工体制を構築する。

○今後の展開

「彩花菜園」として本格稼働するのは、夏野菜が店頭と並ぶ今夏からとなるため、夏場以降の利用者の増加に期待ができる。
「南丹市道の駅連絡協議会」において、交流人口の拡大等について、連携した取組を進めていきたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	農業関連施設整備事業【道の駅 京都新光悦村】	担当課	農政課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生拠点整備交付金	南丹市地域創生戦略	
	観光・交流施設と地域資源ネットワークによる交流人口拡大事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	87,246	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	41,601	想定される主な事業	②観光・交流施設の整備・充実

○事業の目指す方向

これまで取り組みを進めてきた地域資源を活かした商品開発、人材育成、イベント、ICTの活用などのソフト事業と観光・交流に関する施設の整備と充実により、拠点となる道の駅などと、特産品販売、農業体験のネットワーク形成を図り、最大限の交流人口の拡大により、地域経済全体の底上げを目指す。

○事業概要

年々売上が増加している農産物加工品について、更なる売上増加を図るため、加工所を増築することで加工量の増加と「おぼんざい」など取扱品の拡大を図る。同時に、物販だけでなく生産者と訪問客の交流拠点施設とする施設のリニューアルも行い、加工品販売と京野菜を使う調理の講習会の開催などで来訪者を増加させ、交流人口の拡大とともに売上増加を目指す。

○実施状況

【農産物加工所の増築及び施設リニューアル】

- ・農産物加工所の増築工事
- ・施設リニューアル工事



○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
施設農産物等売上額	109,083千円	95,925千円	88%	118,273千円
施設観光消費額	226,860千円	213,463千円	94%	230,366千円
施設観光入込客数	165,372人	152,568人	92%	167,927人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

農産物加工所の増築及び施設のリニューアルにより、農産物加工品の加工量の増加拡大を図る。農産物加工品販売やイベント等を実施し、来訪者を増加させ、交流人口の拡大とともに売上増加が予想される。

観光・交流の拠点施設として交流人口の拡大が図れる機能を充実させ、自らも人を呼びこめる施設として機能を果たし、各施設並びに地域を周遊させ、地域経済全体の底上げを図ることが求められている。

(2)KPIに寄与しているか

農産物加工所の増築及び施設リニューアルにより、利用者の増加につながる。

(3)KPIの達成状況

農産物加工所の増築及び施設リニューアルの工事完了が平成30年3月末となったことから平成29年度については、目標値を達成することが出来なかったが、農産物加工品の加工量の増加拡大、農産物加工品販売やイベント等を実施することで今後の来訪者を増加が期待できる。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

「南丹市道の駅連絡協議会」において、交流人口の拡大等について、連携した取組を進めている。

(6)関連している事業との連携状況

- ・拠点となる道の駅及び都市と農村の交流施設と地域資源を活用した商品開発、人材育成、イベント実施、ICT活用、特産品販売、農業体験、宿泊施設のネットワークを形成することにより交流人口の拡大を図る。
- ・市内に点在する農産加工グループの後継者育成につなげて、市内での継続した農産加工体制を構築する。

○今後の展開

「南丹市道の駅連絡協議会」において、交流人口の拡大等について、連携した取組を進めていきたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	農業関連施設整備事業【八木農村環境公園水室の郷】	担当課	農政課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生拠点整備交付金	南丹市地域創生戦略	
	観光・交流施設と地域資源ネットワークによる交流人口拡大事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	14,299	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	7,150	想定される主な事業	②観光・交流施設の整備・充実

○事業の目指す方向

これまで取り組みを進めてきた地域資源を活かした商品開発、人材育成、イベント、ICTの活用などのソフト事業と観光・交流に関する施設の整備と充実により、拠点となる道の駅などと、特産品販売、農業体験のネットワーク形成を図り、最大限の交流人口の拡大により、地域経済全体の底上げを目指す。

○事業概要

農業体験施設や調理加工施設などを有し、都市と農村の交流拠点施設として田園風景の中に立地しているが、田園風景を眺めながらくつろぐことのできる飲食可能なオープンスペースが整備されていない。現在、通路となっているスペースを本整備により、レストランの飲食可能なオープンスペースとして増築し、施設近隣に立地する食品工場と連携した体験も合わせて、1日滞在が可能な交流の拠点施設となることを目的とする。

○実施状況

【レストランテラスの増築】
・農食館レストランテラスの増築工事



○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
施設農産物等売上額	5,090千円	4,210千円	83%	5,519千円
施設観光消費額	4,764千円	4,256千円	89%	4,838千円
施設観光入込客数	12,759人	14,020人	109%	12,956人

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

レストランテラスのリニューアルにより、レストランの飲食可能なオープンスペースの確保が図れた。観光・交流の拠点施設として交流人口の拡大が図れる機能を充実させ、自らも人を呼びこめる施設として機能を果たし、各施設並びに地域を周遊させ、地域経済全体の底上げを図ることが求められている。

(2) KPIに寄与しているか

レストランテラスのリニューアルにより、利用者の増加につながる。

(3) KPIの達成状況

レストランテラスのリニューアルの改修工事が平成30年2月末となったため、施設観光入込客数のみ目標値を達成となった。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

活用されている。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

オブザーバーとして参画している「南丹市道の駅連絡協議会」において、交流人口の拡大等について、連携した取組を進めている。

(6) 関連している事業との連携状況

・拠点となる道の駅及び都市と農村の交流施設と地域資源を活用した商品開発、人材育成、イベント実施、ICT活用、特産品販売、農業体験、宿泊施設のネットワークを形成することにより交流人口の拡大を図る。
・市内に点在する農産加工グループの後継者育成につなげて、市内での継続した農産加工体制を構築する。

○今後の展開

「南丹市道の駅連絡協議会」において、交流人口の拡大等について、連携した取組を進めていきたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(京都丹波トライアスロン大会)	担当課	地域振興課
実施時期	H29.8		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	500	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	250	想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

3種類の競技を組み合わせた健康に良いスポーツとして、多くの人に浸透し、認知され女性や教育機関の関心も年々高まり、現在日本のトライアスロン人口は30万人以上となっている。南丹市の豊かな自然を満喫できるコース設定を設定することで、スポーツ観光振興の1つの事業としての定着を目指す。

○事業概要

8月27日に南丹市八木地域を会場として「第3回京都丹波トライアスロン大会in南丹」を、京都丹波トライアスロン大会実行委員会の主催により、スーパースプリントディスタンス・スーパースプリントリレー・スプリントディスタンス・スタンダードディスタンスのカテゴリで開催(8月26日選手受付・おもてなしイベント・開会式・協議説明会)

○実施状況

カテゴリ別参加者

スーパースプリント(一般) 43名
 スーパースプリント(高校生) 2名
 スーパースプリント(中学生) 16名
 スプリント(一般) 54名
 スプリント(高校生) 6名
 スタンダード 404名
 リレー 4組



○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

社会の健康志向の高まりに応じた取り組みでありニーズを反映している。

(2)KPIに寄与しているか

今回で3回目の開催であり、それまでには無かった新たな取り組みであるがKPIに寄与している。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

全国的なスポーツの大会を間近で見ることにより、ひたむきにゴールを目指し努力をする選手から、体を動かすことの素晴らしさを知り、老若男女を問わず体を動かす機会づくりに寄与したと考える。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

特に無し

(6)関連している事業との連携状況

特に無し

○今後の展開

参加者の安全確保のためにも、現状の参加者数がほぼ上限であるため、関連団体との連携を密にし、応援者の増加や参加者による南丹市内での経済波及効果につながる取り組みを行いたい。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(美山サイクルロード)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H29.5		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
対象事業費(千円)	315	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
交付金充当額(千円)	158	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
		想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

公道を使用した自転車ロードレース大会を南丹市美山町地域で開催することにより、自転車競技の普及と理解と深め、美山町地域が自転車競技の拠点となるようにする。

○事業概要

京都美山サイクルロードレース2017の主催団体である、美山サイクルロード実行委員会に対し、補助金を交付し、自転車競技の普及と南丹市美山地域の活性化に寄与する。

○実施状況

平成29年5月27日(鶴ヶ岡コース タイムトライアル)

個人タイムトライアル 88名

トロフェバラッキ 58名

平成29年5月28日(九鬼ヶ坂コース)

九鬼ヶ坂コース1周の部 210名

2周の部 204名

4周の部 211名

7周の部 161名

長谷ショートコース(小学生、初心者) 38名 合計 970名出場



5月27日 レースの様子



5月27日 レースの様子

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

国内で最も長く開催されている公道を使用した自転車ロードレースであり、自然豊かな南丹市美山地域を走行できるとして、高い人気があり、約1,000名の出場者がある。

(2)KPIに寄与しているか

大会期間には、1,000名の出場者があり観光振興に寄与している。
また、近年盛り上がりを見せる自転車ブームにより、年間を通じて自転車での観光客が多くある。

(3)KPIの達成状況

本イベントや自転車を通じて市外から多くの来訪者があり、交流人口の拡大につながっている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

本事業は、実行委員会に対する運営補助事業であるため、施設整備等は行っていないが、事務経費として適切に事業を執行される。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

ボランティアスタッフの募集や競技関係者及び地域住民の運営委員への参加により、運営経費の削減に努めている。

(6)関連している事業との連携状況

直接的な連携は行っていないが、南丹市美山町地域で実施されるスポーツイベントとは一体性を持って事業を実施している。

○今後の展開

近年の自転車ブームにより参加者は増加傾向にあるため、安全面の確保が難しくなっている。
継続して大会を実施できるよう、大会の運営方法を見直す必要がある。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	スポーツ拠点づくり推進事業(ワンデーマーチ)	担当課	美山支所地域推進課
実施時期	H29.11		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	2南丹市への人の流れを増幅させる
対象事業費(千円)	300	施策の展開	(2)観光・交流の拡大に向けた魅力の創出
交付金充当額(千円)	150	想定される主な事業	③エコツーリズム等の推進

○事業の目指す方向

1. かやぶき集落をはじめ野々村仁清生誕の地など南丹市美山町地域のイメージを高める。
2. 都市住民とのふれあい・交流の場を大切に、リピーター層を拡大し経済活動につなげることを目的としている。
3. 市民の健康づくり推進の一助として、ウォーキングを通じて健康な体づくりの取り組みとする。

○事業概要

18キロコース(重要伝統的建造物群保存地区・美山町自然文化村まで)
 12キロコース(野々村仁清生誕地・大野ダム湖)
 3キロコース(かやぶき美術館の屋根裏の学習も出来るゆったりファミリー向けコース)

○実施状況

平成29年10月22日に南丹市を通過した台風21号により、美山町内各地で倒木や土砂崩れ、道路の崩落などの被害が発生し、早期の復旧に向けた工事等が進められているなか、ワンデーマーチコースの安全確保および大会スタッフの確保に課題があることから大会は中止となった。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
観光入込客数	200万人	255万人	128%	260万人
外国人観光客の宿泊者数	2,000人	6,052人	303%	7,000人

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

ワンデーマーチを通して、都市住民に対する南丹市美山町地域のPRや田舎を訪れるきっかけ・意欲づくりが期待できる。
 都市部との交流を一層深め、イベント実施また、イベント後の交流による地域振興や他の事業への波及等の効果をもたらすと考える。

(2)KPIに寄与しているか

平成29年度申込者数 389名(平成29年10月20日時点)
 大会は中止したものの、南丹市内をはじめ京都市・舞鶴市・綾部市・京丹後市・福知山市等の近隣市町村、大阪府・兵庫県・滋賀県等から多くの参加申し込みがあった。また、愛知県・石川県・福井県等、遠方からの申し込みもあった。

(3)KPIの達成状況

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

立哨や参加者へのもてなしには多くの人員を要し、またコースの整備も必要である。地域住民・団体の方々にスタッフとして参加いただいたり、コース上の集落に農道の草刈りや整備、休憩所としての公民館を提供いただいたりと、地域の理解・協力のうえで開催している。今後、ボランティアスタッフを募集するなど運営経費の削減に努める。

(6)関連している事業との連携状況

地域イベントである美山ふるさと祭と同日開催している。スタート・ゴール地点は祭会場に隣接しており、食品や特産物の販売、ステージイベントなどワンデーマーチ参加者の満足度の向上が期待できる。ふるさと祭の来場者増加にもつながり、両イベントの相乗効果を図っている。

○今後の展開

都市と農村の交流は美山町地域の重要課題であり、ワンデーマーチもその大きな取り組みのひとつである。京都・滋賀をはじめ近隣のウォーキング大会会場に出向き広報活動を行ったことより、参加者を増やしてきている。参加者の高齢化の傾向にあるが、今後も広報・啓発を行い、全国各地から幅広い年代の方々に参加いただける体制が必要である。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	実践型人材育成事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.7～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>切れ目のない子育て支援と支援型プログラムを通じた女性活躍推進事業</small>	基本目標	3若い世代の夢をかなえる
対象事業費(千円)	4,850	施策の展開	(1)結婚・出産・子育ての夢をかなえる支援
交付金充当額(千円)	2,425	想定される主な事業	④女性の活躍の場を広げる
			1「しごと」を創出し働く場をつくる
			(1)新たな「しごと」にチャレンジする就業・起業支援
			①創業・起業の支援

○事業の目指す方向

本市における今後のしごとづくりにおいて、さらなる展開が期待される観光などの産業をテーマとして、主に女性を対象に、道の駅等の特産品開発などについて、商品開発からマーケティングまでのプロセスを含む実践的な研修プログラムを実施することで、専門的知識を有する人材の育成を目的とする。

○事業概要

道の駅等の特産品開発をテーマとし、マーケティングから商品開発までのプロセスを実践型研修として実施し、商品開発における専門的知識の習得などを通じ、人材育成を行うもの。

○実施状況

研修受講者14名、研修6回、フォローアップミーティング1回
 ・稼ぐ地域のつくり方(地域の魅力を発見・磨く・発信するサイクルを回す手法)
 ・地域マーケティング(現場の気づきからのアウトプット)
 ・商品開発ワークショップ(現場の気づきからのアウトプットの続き)
 ・ユーザーテスト【道の駅スプリングスひよし】(消費者の声からの商品・サービスの改善、販売方法の改善)
 ・ユーザーテストの振り返り(アンケート調査結果の読み解き)
 ・試作品の最終検討会・成果報告会(商工、金融関係者へのプレゼンテーション)
 ・前年度受講者フォローアップミーティング(平成28年度研修参加者の実践状況に応じたフォロー)

○KPI

KPI	H29目標値	実績値(H30.4現在)	達成度(%)	H30年度目標値
女性起業家数	5	2	40%	5

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

市が実施した調査では地域活性化のために力を入れるべき取り組みとして「女性の活躍推進、若者の人材育成」、就学前の児童の母親に対するニーズ調査でも「フルタイムへの転換希望」など、女性の活躍の場を創出するとともに、女性のスキルアップによる社会参画が求められている。

(2)KPIに寄与しているか

主に女性を対象に、商品開発からマーケティングまでのプロセスを実践型研修として実施して、商品開発に係る知識の習得により、起業や自身の事業の発展につながった。

(3)KPIの達成状況

研修受講者の中から、女性2名、男性1名が起業している。
 また、既に事業を営んでいる受講者間で事業の協力が実現するなどの効果も生まれている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

研修後、受講者による試作品を商品としたクラウドファンディングの実施など実践につながっている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

特定の道の駅をモデルとして設定し、実施したことで、より具体的、実践的な研修内容となった。

(6)関連している事業との連携状況

創業支援事業として、創業に向けた基本的知識を習得するなど創業を支援する研修プログラムも実施している。

○今後の展開

研修後、受講者による試作品の商品化など実践につながっている。平成30年度は3年間の事業の最終年として、フォローアップや起業や商品化後の販売手法や見せ方など事業の継続性をテーマとした研修を予定している。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	小学校跡施設利活用推進事業	担当課	地域振興課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	15,258	施策の展開	(1)魅力ある次代の地域づくり
交付金充当額(千円)	7,141	想定される主な事業	②地域活性化拠点づくりの推進

○事業の目指す方向

小学校跡施設の利活用を推進するために地域住民が施設を利用する仕掛けづくりを行い、地域自治団体の設立を図る。
 活用にあたっては施設改修により利便性の向上を図り、小学校跡施設の利用者の増加を目指すとともに、地域活性化センターへの移行に併せ、必要な設備を設置し、適正な施設の維持管理を行う。

○事業概要

・地域の活性化を図るため、地域の利活用検討組織が小学校跡施設を活用して行うイベント、施設の改修、備品の購入などの事業に対して交付金を交付
 ・トイレ改修工事設計業務(旧平屋小学校)
 ・トイレ改修工事(旧平屋小学校)
 ・消防設備改修工事(旧川辺・平屋小学校)

○実施状況

・市民提案型まちづくり活動支援交付金(小学校跡施設利活用事業)
 申請団体:摩気高山の郷振興会、川辺活性協議会、西本梅地域振興会、神吉三区、平屋小学校跡地管理運営委員会、鶴ヶ岡振興会
 事業内容:小学校跡施設を活用した夏祭り、文化祭、収穫祭等イベントの実施等
 ・トイレ改修
 女子トイレの改修(和式→洋式)
 ・消防設備改修

○OKPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
地域自治団体の設立	-	10	-	11
廃校舎の活用	-	4	-	11

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

施設を地域で活用し、新たな拠点とすることでコミュニティの醸成及び地域の活性化に寄与することが期待できる。旧小学校施設は、トイレが和式トイレであり、高齢者や幼児の利用が困難であり、改修は地域からの要望であった。

(2)KPIに寄与しているか

施設の利活用を促し、地元利活用団体の意識を高めることに繋がっており、平成30年度より3校が新たに指定管理施設となる。
 施設改修により、多くの方に利用してもらうことが可能になる。

(3)KPIの達成状況

平成30年度より新たに3施設において、地域団体が指定管理者となり、地域活性化センターとして新たな地域振興の拠点として活用していくこととなった。
 施設の活用を促進することで地域自治団体の設立の推進が図れている。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

平成29年度には4校、平成30年度からは新たに3校が地域団体が指定管理者となる指定管理施設である地域活性化センターとなり、地域住民のコミュニティ活動や会議等に活用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

小学校跡施設をそのままにせず、活用を行うことで将来的な利活用に繋げる。

(6)関連している事業との連携状況

平成28年度より地域活性化センターとして開設している施設との連携を図りながら、地域振興行事の実施や利活用の推進を図る。
 指定管理制度の活用を含めて、地域で利活用できるよう基盤を整えていく。

○今後の展開

平成30年度以降も継続して当事業を行うことによって、小学校跡施設の利活用を推進する。
 指定管理者制度による適正な施設の管理と、利活用に向けた様々な取り組みを行う。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	小学校跡施設管理費	担当課	地域振興課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	7,214	施策の展開	(1)魅力ある次代の地域づくり
交付金充当額(千円)	3,607	想定される主な事業	②地域活性化拠点づくりの推進

○事業の目指す方向

廃校となった小学校跡施設を活用し、地域の子どもから高齢者までが集い、住み慣れた地域で生き生きと健康に暮らしていける仕組みの形成とともに、地域の資源を活かし地域内外の交流を通じ、地域社会の活性化を図ることを目的として、南丹市地域活性化センターを設置し、地域の拠点施設とする。

○事業概要

南丹市地域活性化センターを設置し、以下の事業を実施
 ・地域住民相互の交流及びコミュニティ活動を振興するための事業
 ・地域の資源を活かし地域内外の交流を図るための事業

○実施状況

○平成29年4月設置 4か所
 ・南丹市新庄地域活性化センター
 ・南丹市吉富地域活性化センター
 ・南丹市五ヶ荘地域活性化センター
 ・南丹市大野地域活性化センター

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
廃校舎の活用	-	4	-	11

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

地域の拠点であった小学校跡施設を活用していくため、地域で跡施設の活用について検討され、設置に至っている。

(2)KPIに寄与しているか

地域の拠点となり、地域住民相互の交流及びコミュニティ活動の振興や地域の資源を活かした地域内外の交流など様々な活用をがなされ地域の活性化が進んでいる。

(3)KPIの達成状況

旧小学校11施設のうち4施設が、地域振興会などの地域団体が指定管理者となり、地域活性化センターとして地域振興の拠点として、利活用を図っていくこととなった。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

地域の拠点施設として、利用されている。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

地域振興会などの地域団体が、指定管理者となり地域の拠点施設として地域住民のニーズに合った施設運営をされている。

(6)関連している事業との連携状況

他の地域活性化センターとも連携を取り、利活用の推進を図る。

○今後の展開

地域の拠点施設として、指定管理者制度による適正な施設の維持管理と地域の特長を生かした施設運営を進める。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	集落活性化支援事業	担当課	地域振興課
実施時期	H29.6～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	<small>企業サテライトオフィスの誘致から広がる持続可能な地域づくり事業</small>	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	4,400	施策の展開	(1)魅力ある次代の地域づくり
交付金充当額(千円)	2,200	想定される主な事業	④地域活性化の支援

○事業の目指す方向

過疎化や高齢化により活力が低下している集落について、地域が抱える課題の解決を図るとともに、時代に応じた地域の新しい価値・誇りの創出によって集落の維持や活性化を図る。

○事業概要

補助金の対象となる事業は、市(集落支援員)が協力し、区民の皆さんにより課題等の掘り起しや今後のあり方について十分な話し合いが持たれ、課題解決や目指す将来像の実現を図るために実施される①地域再生計画策定事業、②地域再生事業、③激変緩和事業

○実施状況

- ①地域再生計画策定事業 1件 200千円
- ②地域再生事業 1件 500千円
- ③激変緩和事業 13件 3,700千円



○OKPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
補助金活用事業の実施件数	38	15	39%	20

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

過疎化や高齢化は実際に進行しており、地域の活力は年々低下している。集落支援員が人的支援を行い、集落支援事業補助金で金銭的支援を行い事業を進める制度となっているおり、市民や社会のニーズは反映されている。

(2) KPIに寄与しているか

人と活動資金の両面を支援する集落活性化の制度であり、KPI達成に寄与している。

(3) KPIの達成状況

目標値に対し達成度は40%と低く見えるが、「集落支援事業補助金」の前身となる「南丹市ふるさとの誇りと絆支援補助金」の制度を合算すると78%の達成となる。

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

本事業については施設整備を前提としたものではなく、地域の活性化について、集落支援員と地域住民とで十分に検討を重ね、地域の活性化に必要となる施設や成果品を整備をする事業であるため活用されている。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

集落支援員同士が情報の共有と調整を行うことにより、外部講師等を招いて行う事業については、同一日に講演会をまとめることによる講師料の抑制や、チラシの裏表で異なる団体が告知を行うことにより印刷製本費や配布に係る経費を削減する等の工夫を行っている。

(6) 関連している事業との連携状況

地域それぞれの行う取り組みにより、関連する事業が異なる。集落支援員同士や担当職員が定期的に情報を共有することにより、該当地域へ伝達することによる相互連携の事業実施を行っている。

○今後の展開

過疎地域自立促進法の期限である平成32年度をもって終了予定。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	障害者就労支援ネットワーク運営事業	担当課	社会福祉課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	インクルーシブサイエティ(共生に賑わう社会)推進事業	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	2,601	施策の展開	(2)住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	1,300	想定される主な事業	①共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

市内障害者就労事業所のネットワークを構築し、受発注情報の収集・提供等を行うことにより、障害者就労支援事業所の経営基盤を強化し、障がい者の就労の場を確保していく。

○事業概要

市内障害者就労支援事業所の中から、業務遂行能力を持った団体を事務局として選定し、就労支援ネットワーク会議の運営、物品等パンフレットの作成及び更新、PR活動・ニーズ調査の実施、一次共同受注窓口の運営を行う。

○実施状況

(ネットワーク会議構成事業所数 9事業所)

- ①会議開催回数 2回
- ②商品・作業パンフレットの更新 500部
- ③商品・作業単価一覧更新
- ④商品・作業を仲介する共同受注窓口の運営

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
住みやすいと感じている市民の割合	50%	64%	128%	50%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

障がいのある方の就労を支援する市内事業所の連携により、障がいのある方の生きがい、働きがいをつくる場所の経営基盤の強化が図れている。

(2)KPIに寄与しているか

障がいのある方の安心して働ける場所の確保が図れている。

(3)KPIの達成状況

目標どおりの達成

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

委託業務の成果品のひとつであるパンフレット「つむぐ」を本庁・各支所で窓口配置するとともに、データをホームページに掲載。また、共同受注窓口に関しては、市民向けにお知らせ版・ホームページ・データ放送・CATV文字放送で広報を実施。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

事業所間の連携活動により、営業面の効率化や市場ニーズの共有が可能となった。また、共同受注窓口の開設により発注先がわからないといった消費者や単一事業所では対応できない大口受注にも対応できるようになった。

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

ネットワーク会議を核として、障害者就労支援事業所の商品開発や販路拡大等に向けた取り組みを展開していくことで障がいのある方の安心して働ける場所の確保及び工賃アップを図っていく。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	障害者団体活動支援事業	担当課	社会福祉課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	インクルーシブソサエティ(共生に賑わう社会)推進事業	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	1,423	施策の展開	(2)住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	711	想定される主な事業	①共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

団体の活動を支援することにより、団体の運営の安定を図るとともに、障がいのある方に対する社会の理解と認識を深め、自立と社会参加を促進していく。

○事業概要

障がいのある方の社会参加の促進や自立した生活の支援を目的に活動する当事者団体等に対して、団体の目標達成に向けた活動を支援するための補助金を交付する。

○実施状況

市内に拠点を置く当事者団体(7団体)及び1事業へ補助金交付。

- ・視覚障害者協会
- ・心身障害児者父母の会
- ・身体障害者福祉会
- ・八木難聴者の会
- ・精神障害者家族会
- ・身体障害者相談員協議会
- ・聴覚障害者協会
- ・南丹管内障害児季節療育事業

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
住みやすいと感じている市民の割合	50%	64%	128%	50%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

障がい者やその保護者等で構成される当事者団体や障がい者支援団体の活動事業費の一部を補助することにより、障がい者の社会参加が図れている。

(2)KPIに寄与しているか

障がい者の社会参加及び障がいのある方に対する社会の理解と認識を深めている。

(3)KPIの達成状況

目標どおりの達成

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

○今後の展開

各団体では、会員の減少・高齢化等により活動を維持していくことが困難な状況が見受けられるため、団体活動の強化に向けた支援により、障害者福祉の増進を図る。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	特別支援教育推進事業	担当課	学校教育課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	インクルーシブソサイエティ(共生に賑わう社会)推進事業	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	20,000	施策の展開	(2)住み続けたい安心・安全のまちづくり
交付金充当額(千円)	10,000	想定される主な事業	①共生社会の推進と仕組みづくり

○事業の目指す方向

障がいのある子どもと障がいのない子どもができるだけ同じ場でともに学ぶことを基本としながら、それぞれの子どもが授業内容を理解でき、学習活動に参加している実感・達成感をもちながら充実した時間を過ごしつつ確かな力を身に付ける。

○事業概要

児童生徒一人ひとりの学力の定着と、特別な教育的支援を必要とする児童生徒に対して、きめ細かで個に応じた指導や支援を行う。

○実施状況

特別支援教育支援員を18名雇用し、小中学校に配置した。
特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応じた支援を行うことにより、一人ひとりの障がいやその特性を踏まえた指導や支援の充実を図ることができた。

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
住みやすいと感じている市民の割合	50%	64%	128%	50%

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

障がいのある児童生徒の自立や社会参加に向けた特別支援教育を実施することにより、支援を必要とする子どもと保護者、地域の人々の願いにこたえることができた。

(2)KPIに寄与しているか

特別支援教育の充実を図ることにより、支援が必要な児童生徒にとってはもちろん、教育環境の充実にもつながり、住みやすい街づくりに繋がっている。

(3)KPIの達成状況

数値的な指標は分析できていないが、教育的支援を必要とする児童生徒の実態に応じた対応ができた。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

(6)関連している事業との連携状況

京都府にも同様の事業があり、それを補充する形で本事業を実施している。

○今後の展開

共生社会の形成に向けて、同じ場でともに学ぶことを基本とし、支援を必要とする児童生徒の個々の実態に応じた支援を続けている。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	間伐材出材奨励事業	担当課	農林整備課
実施時期	H29.4～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	6,024	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	3,012	想定される主な事業	①森の京都の取り組み

○事業の目指す方向

間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐及び木材自給率の向上を図るとともに、森林の荒廃を食い止め、森林の保全につなげる。

○事業概要

間伐材の山土場から市場又は、間伐材加工施設までの輸送に係る経費について、実績に応じて1㎡当たり300円以内の補助をすることにより、コスト削減を図り間伐促進に寄与する。

○実施状況

平成29年度については、20,079㎡の間伐材を搬出
(過去の実績)
平成28年度 26,729㎡、平成27年度 21,700㎡、平成26年度 21,232㎡

○KPI

KPI	H29目標値	実績値	達成度(%)	H30目標値
森の京都関連事業実施数	4	10	250%	4

○分析

(1) 市民や社会のニーズを反映しているか

林家の山離れによる森林の荒廃を食い止め、森林の持つ公益的機能を十分に発揮するためには、間伐実施は不可欠である。

(2) KPIに寄与しているか

木材価格の低迷が長期化する中で、搬出費用の軽減を図ることにより、林家の間伐意欲が継続され、災害に強い森林が保全される。

(3) KPIの達成状況

(4) 整備された施設や成果物は活用されているか

間伐により森林整備を促進し、公益的機能を発揮させることが可能となる。

(5) コスト削減や業務効率化に向けた工夫

森林経営計画の策定

(6) 関連している事業との連携状況

森林整備事業の搬出間伐と連携している。

○今後の展開

間伐材の輸送コストの削減により、安定的な供給体制を整備し、間伐促進及び木材自給率の向上に寄与する。

地方創生交付金事業評価調書

細事業名	森の京都推進事業	担当課	定住・企画戦略課
実施時期	H29.7～H30.3		
交付金名	地方創生推進交付金	南丹市地域創生戦略	
	今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業	基本目標	4誰もが安心して暮らせる地域をつくる
対象事業費(千円)	15,095	施策の展開	(3)ともに歩む広域連携の取り組み
交付金充当額(千円)	7,548	想定される主な事業	①森の京都の取り組み ③広域観光の取り組み

○事業の目指す方向

京都府と亀岡市、南丹市、京丹波町、綾部市、福知山市、京都市右京区京北、各分野の事業者や関係団体等が連携し、京都府中部地域の豊かな自然の保全、林業の活性化や森の文化の継承と発信、戦略的交流拠点づくり、プロモーションやマーケティング調査等を実施することにより、多くの人が訪れ、魅力を感じる京都府中部の地域づくり、「森の京都」を推進し、地域の活性化を図るとともに交流人口の拡大及び定住促進の取組を推進する。

○事業概要

関係自治体、各分野の事業者や関係団体等で設立した森の京都DMO(一般社団法人 森の京都地域振興社)を核として、これまでの「森の京都」の取組や平成28年度の森の京都のターゲットイヤーとして取り組んだ「森の京都博」の成果を圏域内で共有・浸透させ、各地域で芽生えている地域づくりの取組や活動などを育み、地域などの実践者が主体となった取組が持続可能なものとなるように環境を整えるとともに、地域資源を生かした商品造成・販売、都市農村交流、特産品のブランド化、人材育成、プロモーション、情報発信などを行い、「森の京都」をテーマとした観光まちづくりを推進する。

○実施状況

(森の京都DMO負担金)

- 1 マーケティング
- 2 着地型旅行商品等の開発・造成・販売促進事業、プロモーション
- 3 特産品の開発・高付加価値化・ブランド化販売促進事業
- 4 人材育成
- 5 森の京都の魅力や一元的な情報発信
- 6 二次交通の充実検討・実証実験
- 7 多様な関係者の合意形成

(森の京都の魅力発信事業)

- ・各道の駅、氷室の郷等を会場とした地域魅力発信イベントの開催



○KPI

KPI	実績値		H30目標値	
	H29目標値	実績値(H30.4現在)	達成度(%)	H30年度目標値
森の京都関連事業実施数	4	10	250%	4

○分析

(1)市民や社会のニーズを反映しているか

森の京都管内には、多くの魅力的な資源が存在している。また、それぞれの地域で活発な活動を展開されている。しかしながら、多くの資源等の知名度が低く、それらの知名度をどう高め、どのように発信していくかが大きな課題となっていた。この「森の京都」の取り組みにより、多くの資源等の魅力を一元的に集約し、さらに魅力を高め『もうひとつの京都 森の京都』としてブランド化を図ることで、日本だけでなく世界中に発信し、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図り、地域の振興に寄与するものである。

(2)KPIに寄与しているか

特産品や地域の魅力が集積される道の駅等を活用し、地域の特徴を踏まえた「森の京都 南丹市」の魅力を発信する事業に取り組み、地域の活性化に寄与するとともに森の京都エリアへの「ひと」の流れを創出した。

(3)KPIの達成状況

多くの森の京都に関連する事業に取り組み、KPIを達成している。

(4)整備された施設や成果物は活用されているか

これまでの取り組みを土台として、継続的なデータ収集に基づく評価分析とマーケティング調査による戦略的な取り組みを推進し、「森の京都」の認知度・好感度をさらに高めるプロモーションを展開するとともに、着地型・体験型プログラム等の開発及び販売促進などに取り組むこととしている。引き続き、森の京都エリアの情報を一元的に発信するホームページを森の京都DMOにおいて運営していく。また、平成29年度で実施した魅力発信の委託事業を平成30年度は、受託事業者の独自事業として実施することとされているところもある。

(5)コスト削減や業務効率化に向けた工夫

京都府、関係自治体、各分野の事業者、関係団体が連携し取り組んでいる事業であるため、事務が重複しないよう、最少の投資で大きな波及効果が出るように、京都府を中心に関係者の連携を密に図り、業務に取り組んだ。

(6)関連している事業との連携状況

観光事業だけでなく、地域の振興や地域経済の活性化、定住促進にもつながる取り組みとしている。

○今後の展開

森の京都DMOを核に、京都府・関係自治体・各分野の事業者・関係団体が連携し、それぞれの力を最大限発揮し、「森の京都」ブランドの高付加価値化を図り、世界に向けてアピールする中で、「南丹市」の知名度や認知度をさらに向上させ、交流人口の拡大を図るとともに定住促進につなげていく。